

経営比較分析表

徳島県 美馬市

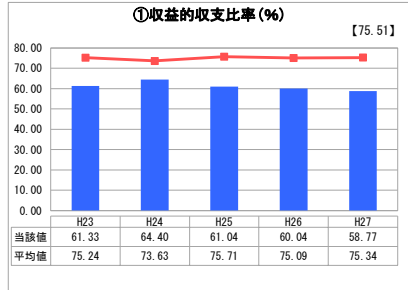
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	17.44	3,456

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,860	367.14	84.06
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,345	10.85	492.63

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



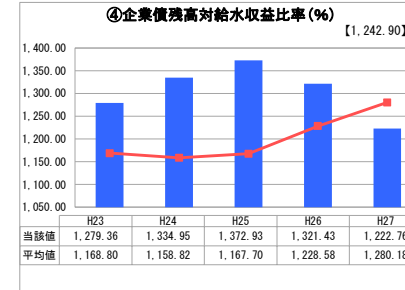
「単年度の収支」



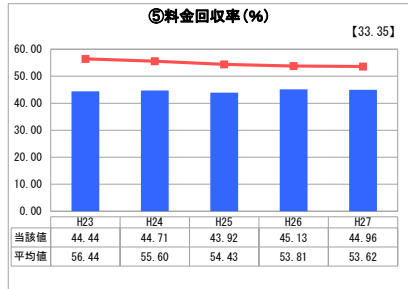
「累積欠損」



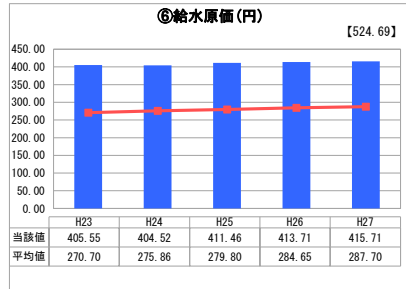
「支払能力」



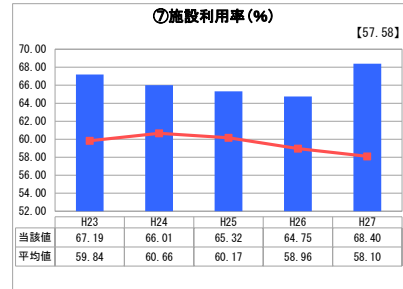
「債務残高」



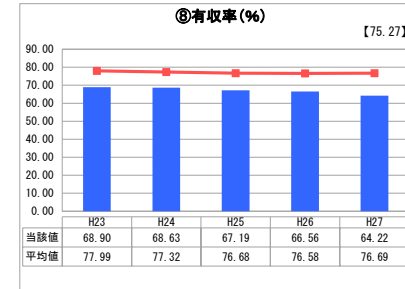
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

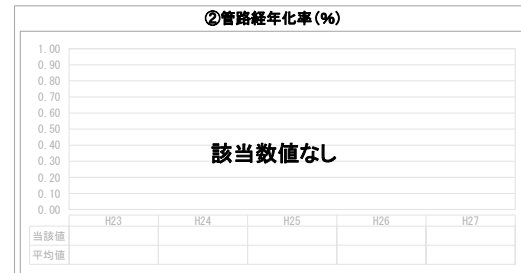


「供給した配水量の効率性」

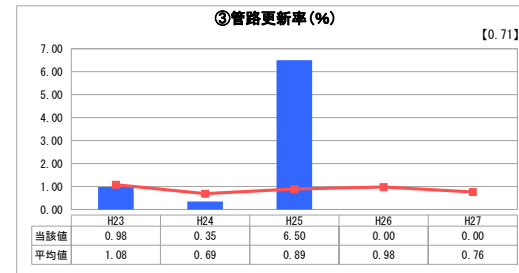
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・収益的収支比率及び料金回収率が100%を割り込み、給水原価は類似団体を上回っている。これは、単年度収支が赤字を示しており、給水等に係る費用に対する収益不足を一般会計からの繰入金をもって賄っている状況である。

・給水収益に対する企業債残高の割合が減少している。これは、大寒波による配水管の破損に伴い、例年に較べて水道料金が増加したこと、また前年度より事業の減少に伴う起債額の減少によるものと考えられる。

・施設利用率は類似団体を上回っているが、有収率は全国平均に比べ低い。これは、大寒波による配水管の破損に伴い稼働率が増加したものの、給水人口の減少による有収水量の減少によるものと考えられる。

2. 老朽化の状況について

・施設状況、財政状況及び補助事業を勘案し、施設更新を行っている状況である。収益が減少している中で、他の財源を確保しながら、計画的に施設更新に取り組んでいく必要がある。

全体総括

簡易水道事業は山間部が中心で、広面積となる自然条件のため、建設改良費が割高となり、その財源の大部分を占めている企業債残高が膨らんでいる。そのため、利息や元金償還が経営を圧迫している。合併後、料金回収率の向上と料金統一を目標に料金改定を実施したが、格差が大きくなり、段階的な改定にとどまっている。人件費を始め、経費削減に取り組んでいるが、一般会計繰入金に依存し、簡易水道経営を行っている。

平成29年度より、簡易水道事業の大部分が上水道と統合し、一部が簡易水道として残る。残った地区については、引き続き、経費削減と料金改定の検討を行っていく必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。